

パワハラ

プラス
おねだり男



亀井
洋示



No. 603 附録

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

編集発行人 田中幹夫

〒113-0034 東京都

文京区湯島2-4-4

平和と労働センター・全労連会館

電話 03(5842)6461

FAX 03(5842)6462

E-mail

chian@bz03.plala.or.jp

頒価 50円

兵庫版 No.488

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

兵庫県本部

〒650-0022 神戸市

中央区元町通6丁目6-12

山本ビル 国民救援会内

TEL(078)351-0677

FAX(078)371-7376

激動の情勢を切り開く同盟運動を

今こそ「再び戦争と暗黒政治を許さない」の呼びかけを

連日テレビや新聞、インターネットなどで報じられる自民党総裁選は、「裏金疑惑」解明から遠ざかっています。その一方で岸田首相は、自らの責任を棚上げにして、総選挙を意識しながら「過去最大の軍事費」計上を準備し、「9条改憲」の道筋をつけようと画策しています。これでは国民が求める「政治改革」ではなく、対米従属の「戦争国家づくり」を加速させることになりかねません。

今こそ「自民党政治そのものを終わらせる」世論と運動が大切です。私たち国賠同盟の要求実現も、政治を変える課題と結合しています。「再び戦争と暗黒政治を許さない」政治は、自民党政治の存続では実現できません。

予想される「総選挙」では、自民党を敗北に追い込み、憲法を尊重する野党連合への展望をひらくたたいが求められています。兵庫県では、現職知事の「パワハラ問題」に端を発し、新たな知事を求める県民世論が高まっています。

こうした政治的高揚が予想される激動の情勢を切り開く、同盟運動を推進しましょう。

当面、①署名運動、②会員拡大、③支部総会、支部活動強化を呼びかけます。

県本部第43期 第1回幹事会報告

第43回総会決定を力に、政権交代で要求実現めざし、1300人会員目標で支部活動を強化し、署名1万5千筆をやり切ろう

第43回県本部総会後はじめてとなる第1回幹事会は8月18日開催されました。当面する情勢、定期総会のまとめ、近畿ブロック交流会準備などを話し合い、県本部の専門部体制などを確認しました。

提起された運動方針

【情勢の特徴】

原水爆禁止世界大会参加者から報告を聞く中で、「核兵器禁止条約」を支持する世界の流れと市民運動の大きな役割に確信をもちました。平和、戦争反対を呼びかける運動の広がりが、ウクライナやガザ問題解決につながります。自民党総裁選や兵庫県知事問題についても話し合いました。

【総会方針にもとづき運

動推進】

《署名運動》国会請願後の新たな署名運動がスタートしています。すべての会員が自分の身近な人に署名を呼びかけることを基本に運動をすすめます。そのために9月の「不屈」とともに署名用紙を全会員に届けることとしました。署名用紙は「同盟要求署名(5人連記)」と「レッド・ページ署名(5名連記)」を同封します。

《会員拡大》8月は残念ながら会員数が後退しました。しかし、会員現勢は1205人と最高水準を維持しています。総会方針である1300人県同盟めざして奮闘しましょう。

【当面の運動の柱】

当面の運動の柱を以下の3点とします。

①署名運動…身近な人への署名依頼、支部で地域の団体への要請

②1300名をめざす会員拡大…対象者への資料渡し、働きかけ

③支部総会開催、支部活動推進(役員会、学習などの行事、拡大と署名)

この活動推進のため、

(1)支部役員会を開き、①支部総会の開催 ②会員拡大 ③署名運動などを具体化する。全県で15000筆、会員1300人目標にみあう支部目標確立。支部総会でたてた目標を県本部に報告。

(2)全会員に「署名」「会員の紹介」などの訴えを届け、活動参加を呼びかける。県本部は9月の「不屈」に、署名用紙と返送用封筒を折り込み、地域ごとに団体訪問を行い、署名への協力を要請する。

(3)学習テキストを普及しながら、読み合わせを基本に「学習会」を計画する。

(4)県本部幹事会として、

「学習会」を計画する…次回幹事会で1時間設定

【県本部専門部体制】

県幹事会の中に以下の委員会・専門部・局を設置します。

▼組織委員会 ▼財政部 ▼事務局 ▼自治体対策部 ▼「記憶遺産」発掘・顕彰部 ▼学習部 ▼女性部(対策委員会) ▼青年部(対策委員会) ▼「不屈」編集員会。今後「機関紙発送・管理」の体制も検討していきます。

【近畿ブロック交流会への参加】

9月23、24日、神戸しあわせの村で開かれる「近畿ブロック交流会」の開催県として準備・運営に責任をもつとともに、多くの参加で成功させることを確認しました。

【全国女性交流会への参加】

11月10日(日)・11日(月)、愛知県・蒲郡市のホテル竹島で行われる「第33回全国女性交流会」に積極的に参加呼びかけすることを確認しました。

【その他】

●第2回幹事会は9月14日(土)午後1時30分から県本部事務所・国民救済会会議室で開催されます。

各地で平和のための戦争展

加印

再び戦争への道を歩まぬために
平和のバトンを次世代へ

第25回「加印平和のため

資料も展示しました。

の戦争展」は、再び戦争への道を歩まぬために平和のバトンを次世代へをテーマに、8月23日～25日に加古川総合庁舎「かこむ」で行われ、約300人が入場しました。

同盟・加古川支部は、治安

維持法関係の展示とともに、

署名コーナーでの国賠署名21筆、8・15終戦日ビラ約40枚を手渡ししました。また、今年の展示では、あらたに「ニッケ争議100周年」の



明石 「体験談の集い」 で熱く討論

第20回記念の「ピース

フェスタ明石」は、8月10日～18日にアスピア明石(明石駅前)で開催されました。

パネル展示は絵本「はだしのゲン」の複製原画やヒロシマ・ナガサキ原爆写真等があり、17日(土)の「戦争体験談の集い」は、120名の参加者で会場はあふれるほどで、会場から神戸空襲の話や若者から「どのよう」に広めていけばいいのか」などの発言が続きました。

18日(日)の講談師「神田香織講演会」は240名の参加で盛り上がりました。

尼崎

「戦争の準備より平和の準備を」
憲法を平和の「尼ロック」に

第29回尼崎平和のための戦争展は、8月23日～25日に尼崎市中央北生涯学習プラザで行われ、べ453人が入場しました。

「戦争の準備より平和の準備」に焦点が当てられ、原爆体験・戦争体験の語り部コーナーでは3人が体験を語り、映画「戦雲」の上映と

会場入口には明石支部が8・15終戦日ビラを置き、国賠同盟をアピールしました。



監督の三上知恵さんのトークも行われました。展示では、広島の高校生による原爆絵画をメインに、琉球弧の基地化の実態、「憲法を平和の尼ロックに」などをアピールしました。

同盟・尼崎支部も治安維持法コーナーで展示、尼崎ゆかりの犠牲者紹介や、朝ドラ「虎に翼」での治安維持法関連の展示をしました。署名23筆、学習テキスト8冊普及し、受付で8・15終戦日ビラ300枚渡しました。

再び戦争と暗黒政治を許さないために

治安維持法、 レッド・パージ

二つの署名

治安維持法制定から百年の年

2025年に向けて

国会請願は毎年行われます。来年も5月に予定されています。さらに大きな署名の輪を広げます。

戦争のため、国民の思想・人権を侵害、
弾圧した治安維持法から100年。
犠牲者の名誉回復と国家賠償を

昭和初期に日本が戦争への道を突き進むとき、反戦平和を唱えた人たちを、政府は「治安維持法」によって検挙・投獄し、残虐な拷問によって死に至らしめるほどの弾圧を強行しました。こうした思想言論弾圧、人権侵害について、現在も政府はその責任を認めていません。暗黒社会を再来させないために、諸外国のように犠牲者に謝罪と賠償するよう国会に請願する署名を集めています。

レッド・パージ犠牲者の名誉回復と
救済を求める国会請願署名

戦後5年を経ずして、アメリカ占領軍と日本政府は日本共産党員とその支持者4万余人を職場から追放、解雇しました。「ポツダム宣言」と「日本国憲法」を蹂躪する無法非道な措置でした。あれから75年、多くの労働者とその家族が人生を狂わされました。政府は、直ちに是正・救済すべきです。「名誉回復と救済を求める国会請願署名」を集めています。

「治安維持法犠牲者の名誉回復と国家賠償を求める国会請願署名」は、今年5月15日に国会に提出し、衆参両院で17人もの紹介議員の賛同を得ました。皆さまのたゆまぬご協力に深く感謝申し上げます。



治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟兵庫県本部

神戸市中央区元町通6丁目6-12 山本ビル3階
日本国民救援会内 Tel 078-351-0677

※同封の返信用封筒で返送してください。切手代はカンパをお願いします。

2024年9月

権力犯罪 1974年11月22日 八鹿高校事件

連載⑥
田中隆夫



「1974年11月22日事件当日校内の惨状を八鹿警察署へ訴え、救出を拒否され、泣き叫びながら帰ってくる女生徒たち」八鹿の真実を守る会編「八鹿の高校事件の真実」より

前3回で、事件当時の兵庫県知事坂井時忠、前知事・現職兵庫選挙区参院議員金井元彦の戦前の特高警察官僚としての実態を明らかにしてきました。今回より八鹿高校事件の実態と直前の兵庫県知事選挙の真実に迫ります。

1960年代後半～70年代前半には社会党、共産党与党の革新知事が9都府県に拡大。75年の一斉地方選挙時点では、205自治体、人口で約4千7百万人・総人口約43%が革新自治体で暮らすまでになった。兵庫でも県知事選1年前の1973年11月に神戸市で共産党も与党になる宮崎辰雄市長が誕生します。

(一) 知事選での革新統一分断へ、権力による部落解放同盟の暴力放置・泳がせ作戦

社共両党推薦の前副知事対現職知事対決の知事選挙投票日は1974年11月3日。社共対立を作り出し、革新県政

を阻止する作戦が、権力総動員で開始されます。

5月6日、八鹿高校珍坂校長は、但馬教育事務所長西村勝の要請で事件実行主犯となる丸尾良昭解同沢支部長と会見。6月30日県教委増井主事の職務命令で解同「継続研修会」に教頭と出席、7月中旬に学内「解放研」作りを解同と約束。学校応接室に「解同」現地闘争本部利用を許可。11月、知事に再選された坂井時忠県知事が18日、現地闘争本部となった八鹿高校応接室まで来て丸尾と握手。20日に校長は、職員室へ出向き「解放研」の要求をのまない」と「責任が持てなくなる」と発言。

11月22日教員リンチ事件当日、高校内には、珍坂八鹿高校校長、小田垣教頭以外に兵庫県から現地派遣された教育関係幹部が5名いました。

県教委の前田らは、暴力的「糾弾」を避けるため学外へ出ようとした教職員を校門で制止。教師たちはその後、立協履物店前で解同の車に前後

を挟まれ、とつさに路上に座り込む。そこで起こったことの幼稚園児の母の証言、「見たんです。路上に座り込んだ先生に一度にとびかかりました。女の先生の髪の毛をつかんで引きずる、蹴る、殴る、地面にうずくまるように固まっている先生の真ん中に、半長靴の男がジャンプするようにおどりに込む。やがて顔面血だらけの先生を2・3人づつで学校へ拉致していった、両足を引きずって行かれる先生もいた。ある先生を行動隊と一緒に引く張って行った人は、確か県教委の同和の役人でしたよ。前に学校で同和の話を聞いていたから、間違いありません。私、店先に立ちすくんで見えました。悲しいというか怒りというか、もう言葉になりません。警察も役所も、もう信用しません。私たち、本当に誰が守ってくれるのでしょうか。」教師を引っ張っていく者の中に、県教委同和指導室主任前田昭一の姿をはっきりと認めている。前田は、県教委か

ら、後に豊岡市の小学校校長になった人物。

珍坂八鹿高校校長は、午前10時半ごろから深夜に至るまで、警察から校内のリンチ事件の収拾のため出動したい旨の連絡に

対して「校内では平穩に話し合いが行われており、警察の介入の事態は起きていない」と虚偽回答をします。その一方で、午前11時30分頃、教頭は集団リンチを受けている教職員の氏名を確認し、糾弾を受けていない教職員9名に「学校に復帰せよ」との電報を県教委教育次長と協議し、事務長に打たせる。午後3時ごろ事務室で教職員の注文した弁当を無断で食事、煙草を吹かせるなどしていた。ハチマキをしめ、リンチの様子を見るために本館2階に上がり「解放研」部室などを見て回る。夜中10時ごろ開始された第一体育館での総括糾弾集会に参加。フラフラになった教職員が職員室に連れてこられると「ご苦勞様でした」「お車の用意がしてありますので、お氣をつけてお帰りください」等と述べた。

他に県教委派遣の ①山岡同和教育指導室主任 ②畑中芳夫 県教委同和教育指導室参事 ③喜始彦明指導主事 ④上田平雄 県教委但馬教育事務所長らが、

新たな2人の登場―山口廣司兵庫副知事と

公明党兵庫副知事選挙候補者・飯田忠雄

①新任山口副知事は、事件当

日、集団リンチ事件に事実上参加

革新統一候補として、直前まで現職の副知事一谷定之丞が立候補。新副知事に山口廣司が就任。山口は、事件当日、県側として指揮をとる立場で八鹿高校にいました。兵庫県警とのやり取りも彼が受け持ち、無法行為を止めるのではなく、事態が解同たちの行動が進むように、集団

警察に見守られながら、解同の無法行為を黙認し、事件の推進を計った。

(2) 権力犯罪のカギを握

リンチ事件に事実上加担。吉富健二元高教組委員長から八鹿警察署長への付審判請求を棄却した文章中で、山口副知事が集団リンチ事件に事実上参加していたことを認めています。

②山口廣司も特高警察出身者、敗戦時は島根県特高課長

敗戦時GHQの特高追放要求で、休職になるが1948年警察に復職、1951年兵庫県警備部長となり、警備公安関係を経任。1956年4月防衛庁へ

出向―陸上幕僚監部第2部別室長、内閣調査局調査官兼務。以降大阪・警視庁警備関係長など経て1974年5月兵庫副知事へ。

③陸上幕僚監部第2部別室とは？

山口は、初代の防衛庁陸上幕僚監部第2部別室長となる。

八鹿高校事件翌年1975年6月3日、衆議院内閣委員会で日本共産党中路雅弘議員が「第2部別室」を追及。別室は「今まで、20年近く千名をこえる部隊が、(内閣調査官兼任の)警察官が指揮官でやってきた。これは隊法上どこにも法的には明白な根拠はない。だから隊法上はみだた部隊だ。しかも、この部隊のやっている仕事は：これは専守防衛の情報収集をやる自衛隊の仕事からはるかにみだた、そういうスパイ的な活動。しかしアメリカが国際的にも文書で出ている、こういうスパイ活動の仕事、そのまま引き受けている。：国会の中で、この2部別室に10億からの予算をつけている。しかし国民は、この部隊が何をやっているか、こういう秘密の仕事、誰にも知らない」



山口廣司陸幕2部別室初代室長